

社会的な見方や考え方（追究の視点や方法）の例（たたき台）

※ 社会的な見方や考え方は、小・中・高等学校の各「見方や考え方」を総称する呼称であり、社会的事象(等)の意味や意義、特色や相互の関連等を考察する際の「追究の視点や方法」である

	考えられる追究の視点例	追究の視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例	社会、地理歴史、公民における思考力、判断力	考察、構想した結果、獲得する知識の例
小学校社会	<ul style="list-style-type: none"> ○位置や空間的な広がり の視点 地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的条件、土地利用 など ○時期や時間の経過の視点 時代、起源、由来、背景、変化、発展、継承、維持、向上、計画、持続可能性 など ○事象や人々の相互関係の視点 工夫、努力、願い、業績、働き、つながり、関わり、仕組み、協力、連携、対策・事業、役割、影響、多様性と共生(共に生きる) など 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように広がっているのだろうか ・なぜこの場所に集まっているのだろうか ・地域によって気候が異なるのはなぜだろう ・いつどんな理由で始まったのだろうか ・どのように変わってきたのだろうか ・なぜ変わらずに続いているのだろうか ・どのような工夫や努力があるのだろうか ・どのようなつながりがあるのだろうか ・なぜ〇〇と〇〇の協力が必要なのだろうか 	<p>◎社会的な事象の見方や考え方</p> <p>位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係、比較・分類したり総合したりして、国民(人々の)生活と関連付けて</p> <p>に注目して社会的事象を見出し</p> <p>追究の方法</p> <p>考察：社会的事象の特色や相互の関連を多角的に考察する力</p> <p>構想：社会に見られる課題について、社会の関わり方を選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの組立工場を中心に部品工場が集まり、工業が盛んな地域を形成している ・駅の周囲は交通の結節点なので人が多いため商業施設が集まっている ・国土の地理的位置や地形、台風などの自然条件によって気候は異なる ・祭りは地域の豊作や人々のまとまりへの願いから始まった ・農作業は機械化により生産効率を向上させてきた ・伝統芸能は技や道具が継承されるとともに、多くの人々に受け入れられて今に至っている ・地域の安全は、関係機関の未然防止と緊急対処によって守られている ・食料生産は私たちの食生活を支える役割を果たしている ・政治には国民生活の安定と向上を図る働きがある
	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように続けていくことがよいのだろうか ・共に生きていく上で何が大切なのだろうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・それは、どこに位置するだろうか ・それは、どのように分布しているだろうか ・そこは、どのような場所だろうか ・そこでの生活は、まわりの自然環境からどのような影響を受けているだろうか ・そこでの生活は、まわりの自然環境にどのような影響を与えているだろうか ・そこは、それ以外の場所とどのような関係を持っているだろうか ・その地域は、どのような特徴があるだろうか ・それは、(どこにある、どのように広げる、どのような場所とする、どのような自然の恩恵を求め、どのように自然に働き掛ける、他の場所とどのような関係を持つ、どのような地域となる)べきなのだろうか 	<p>◎社会的な事象の地理的な見方や考え方</p> <p>位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象を見出し</p> <p>追究の方法</p> <p>考察：社会的事象の特色や相互の関連、意味を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想：地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上の地点は、絶対的、相対的に表現できること (具体例：明石市は大阪市の西にあり、その市立天文科学館は日本標準時子午線上の北緯34度38分、東経135度0分にあります) ・特定の事象は、地球の表面において特定の範囲に広がること (具体例：アマゾン川流域の一年中雨が多く降る地域には、常緑の密林地帯が広がっています) ・地球上の各地は、固有の性格があること (具体例：広島市の沿岸部は、低平な三角州となっています) ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること (具体例：平野の乏しい日本では、その傾斜地を段々畑や棚田にするなどして利用してきました) ・場所は相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと (具体例：多くの人口を抱えた大消費地東京の周辺では、新鮮な農産物を生産し、都市の住民に届ける近郊農業がさかんです) ・空間的な広がりには、まとまりのある固有の特徴を持つこと (具体例：中国地方の山間部では、人口減少や高齢化の進む過疎化に悩む地域が広がっています)
中学校社会	<ul style="list-style-type: none"> ○位置や分布に関わる視点 絶対的、相対的 規則性・傾向性、地域差 など ○場所に関わる視点 自然的、社会的 など ○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 環境依存性、伝統的、改変、保全 など ○空間的相互依存作用に関わる視点 関係性、相互性 など ○地域に関わる視点 一般的共通性、地方的特殊性 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ(どこで、誰によって)おこったか ・前の時代とどのように変わったか ・どのような時代だったか ・なぜおこった(何のために行われた)か ・どのような影響を及ぼしたか 	<p>◎社会的な事象の歴史的な見方や考え方</p> <p>推移や変化などに着目して社会的事象を見出し</p> <p>追究の方法</p> <p>考察：時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想：歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・9世紀の初め、唐に渡った最澄と空海は、帰国後に仏教の新しい宗派を伝えた ・15世紀後期の動乱を経て室町幕府の統一的支配は弱まり、各地の大名による領国の支配や、民衆に対する自治的な結合が進んでいった ・豊かなアジアの富に対する関心やイスラム諸国との接触(対立と文化交流)を背景にヨーロッパ人が海外に進出した ・近世は、江戸幕府の安定した全国支配体制が形成され、産業・通商や町人文化が隆盛をみた時代であった ・ヨーロッパの市民革命を経て広まった自由と平等を理想とする社会への変革は、欧米のみならず、次第にアジアの近代化にも影響を及ぼした ・東アジアの冷戦の激化は、戦後の日本に対する占領政策や経済復興、国際社会への復帰などに大きな影響を与えた
	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな選択が可能だったか(背景) ・なぜそのような判断をしたと考えられるか(ねらい) 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちにとってきまりとは何だろうか ・なぜ市場経済という仕組みがあるのか、どのような機能があるのか ・民主的な社会生活を営むために、なぜ法に基づく政治が大切なのか 	<p>◎現代社会を捉える見方や考え方</p> <p>現代社会を捉える概念の枠組みに着目して課題を見出し</p> <p>追究の方法</p> <p>考察：社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想：複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市場経済において個人や人々は価格を考慮しつつ、何をどれだけ生産・消費するかを選択すること、また、価格には、何をどれだけ生産・消費するかに関わって、人的・物的資源を効率よく配分する働きがあることなどが、市場経済の基本的な考え方である ・民主的な社会における法は、国民生活の安定と福祉の向上を目指し、国民の意思のあらわれとして国民の代表によって構成される議会によって制定されるものであり、国や地方公共団体は、国民の自由と権利を侵さないようにそうした法の拘束を受けながら政治を行っている
公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○現代社会を捉える視点 対立と合意、効率と公正、個人の尊重、自由、平等、選択、配分、法的安定性、多様性 など ○社会に見られる課題の解決を構想する視点 対立と合意、効率と公正、比較衡量、民主主義、自由・権利と責任・義務、財源の確保と配分、利便性と安全性、国際協調、持続可能性 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい決定の仕方とはどのようなものか ・社会保障とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいか ・民主政治を推進するために何が必要か ・世界平和と人類の福祉の増大のためにどのようなことができるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・合意の妥当性を判断する際に、無駄を省く「効率」と決定の手続きや内容についての「公正」が必要である ・財政に関して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、財源の確保と望ましい配分について対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察・判断することが大切である ・地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題に対しては、経済的、技術的な協力などが大切である 	

社会的な見方や考え方（追究の視点や方法）の例②

※科目名は全て仮称である

	考えられる追究の視点例	追究の視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例	社会、地理歴史、公民における思考力、判断力	考察、構想した結果、獲得する知識、概念の例
地理総合	<ul style="list-style-type: none"> ○位置や分布に関わる視点 時間距離、時差 等質（均質、同質）、類似 など ○場所に関わる視点 共通性、多様性 など ○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 限界性、防災・減災 など ○空間的相互依存作用に関わる視点 移動性、圏構造（都市圏…）、グローバリ化 など ○地域に関わる視点 規模、格差、変容、持続可能性 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・それは、なぜそこに位置するだろう ・それは、なぜそのように分布しているだろう ・そこは、なぜそのような場所になったのだろう ・そこでの生活は、まわりの自然環境からなぜそのような影響を受けているのだろう ・そこでの生活は、まわりの自然環境になぜそのような影響を与えているのだろう ・そこは、それ以外の場所となぜそのような関係を持っているのだろう ・その地域はなぜそのような特徴があるのだろう ・それは、（どこにある、どのように広げる、どのような場所とする、どのような自然の恩恵を求め、どのように自然に働き掛ける、他の場所とどのような関係を持つ、どのような地域となる）べきなのだろう 	<p>◎社会的事象等の地理的な見方や考え方</p> <p>位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象等を見出し、地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて</p> <p>↓ 追究の方法 ↓</p> <p>考察 地理に関わる諸事象等を地域という枠組みの中で考察する力</p> <p>構想 そこで生起する課題を解決に向けて構想（選択・判断）する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上の地点は、絶対的、相対的に表現できること （具体例：日付変更線は基本的に180度の経線に沿うが、国内の時差を回避するなどの理由で何か所も折れ曲がっている） ・地球上の各地は、多様な特徴を持つこと （具体例：東南アジアの高湿多湿な地域では通気性を高めるため、シベリアの凍土地帯では住宅内の熱を逃がすため、いずれも高床式住居が建設されている） ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること （具体例：サハラ砂漠の南に広がるサヘル地域では、過度な放牧や農耕、薪の採取などにより砂漠化が進んだ） ・場所は相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと （具体例：飢饉に苦しむ発展途上国への食料援助には、人道的な側面とともに政治的混乱や周辺諸国への難民流入を防ぐといった影響も考えられる。） ・空間的な広がり、固有の性格を持ち、変容すること （具体例：発展途上国には、政治や経済、文化、情報などの機能が首都に一極集中し、地域格差が拡大している国がある） <p>いかなる規模の空間においても、そこに帰属する人々はよりよい環境を創造しようとすること （具体例：地域が抱えるさまざまな課題を積極的に見だし、地理学習で身に付けた地理的な見方や考え方を生かして課題の構造を読み解いていくことが重要である）</p>
地理に関わる探究科目	<ul style="list-style-type: none"> ○位置や分布に関わる視点 経済距離、中心性 単一指標、複数指標、総合（指標） など ○場所に関わる視点 立地、景観、民族性 など ○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 環境可能論、環境決定論 など ○空間的相互依存作用に関わる視点 中枢管理機能、階層性 など ○地域に関わる視点 構造、分化 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・それが、そこに位置する意味（意義、役割、影響）は何だろう ・それが、そのように分布する意味は何だろう ・そこが、そのような場所である意味は何だろう ・そこでの生活が、まわりの自然環境からそのような影響を受けているのはどういう意味があるのだろう ・そこでの生活が、まわりの自然環境にそのような影響を与えているのはどういう意味があるのだろう ・そこが、それ以外の場所とどのような関係を持っている意味は何だろう ・その地域がそのような特徴があるのはどういう意味があるのだろう ・それは、（どこにある、どのように広げる、どのような場所とする、どのような自然の恩恵を求め、どのように自然に働き掛ける、他の場所とどのような関係を持つ、どのような地域となる）べきなのだろう 	<p>◎社会的事象等の地理的な見方や考え方</p> <p>位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象等を見出し、地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて</p> <p>↓ 追究の方法 ↓</p> <p>考察 地理に関わる諸事象等を系統地理的あるいは地誌的に考察する力</p> <p>構想 そこで生起する課題を解決に向けて構想（選択・判断）する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の事象は、地球の表面において特定の範囲に広がること （具体例：メキシコはNAFTAに加盟しながらも文化的にはラテンアメリカに属し、南北アメリカ諸国を経済的、文化的に結び回廊となっている） ・地球上の各地は、多様な特徴を持つこと （具体例：大都市の都心では、行政機関や大企業の本社等が集まり、政治や経済の中枢管理機能が集積している） ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること （具体例：東南アジアの沖積平野では、モンスーン等の自然条件を生かした集約的な稲作農業が発達し、世界有数の米作地帯となっている） ・場所は相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと （具体例：都市が拡大していく過程では、社会資本整備の遅れから、住宅や工場の無秩序な展開を招くことがある） ・空間的な広がり、固有の性格を持ち、変容すること （具体例：シンガポールで複数の言語が公用語となっているのは、複雑な民族間の軋轢を軽減し、多文化主義を推進しようとする役割がある） <p>いかなる規模の空間においても、そこに帰属する人々はよりよい環境を創造しようとすること （具体例：私たちは、日本を取り巻く諸課題をよく認識し、その解決の方向性を見だし、日本の将来像についてよく考えるとともに、世界の繁栄に貢献していかなければならない）</p>
歴史総合	<ul style="list-style-type: none"> ○年代の基本に関わる視点 時期、年代、時代 など ○諸事象の推移や変化に関わる視点 変化、継続、転換 など ○諸事象の特色に関わる視点 相違、共通性 など ○事象相互の関連に関わる視点 原因、背景、ねらい、結果、影響、意味、意義 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ（どこで、誰によって）おこったか ・何が、なぜ、どのように転換したか ・何が受け継がれたのか ・何が変わったのか ・なぜおこった（何のために行われた）か ・それらは、どのような関係があるか ・どのような影響を及ぼしたか ・どんな意味や意義、特色があるのか ・どんな新たな変化をもたらしたか ・何が課題として残されたか ・他にどんな選択が可能だったか ・なぜそのような判断をしたと考えられるか ・あなたは何を求めるか 	<p>◎社会的事象等の歴史的な見方や考え方</p> <p>推移や変化などに着目して社会的事象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして、原因と結果を関連付けて</p> <p>↓ 追究の方法 ↓</p> <p>考察 歴史の転換の様子や変化の特色、意味を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて構想（選択・判断）する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・16世紀には、諸大陸を結びつける国際商業が活性化し、アジアの諸帝国が繁栄した。豊かな富を求めてアジアに進出した西欧との交流も盛んに行われた ・19世紀の欧米や日本は、工業化や政治変動の過程を経て、新たな国家のしくみを生み出し、世界と日本のつながりが一層深まった ・19世紀のヨーロッパ諸国の進出に対して、日本やアジア諸国においては様々な対応策が生まれ、ナショナリズムが形成された ・20世紀には、科学技術やマスメディアが発達し、人・モノ・情報の移動が加速化し、大衆の政治や経済、文化活動への参加が拡大した ・市場経済の進展とともに、国内外で貧富の格差をめぐる問題が顕著となり、富の再分配をめぐる動きが起こる一方、国際社会では支配と従属関係が深まった ・大戦における総力戦体制の構築は、戦後の国家と国民、国際秩序の在り方に新たな変化を生み出した ・経済開発と環境保全をめぐる問題は、豊かな生活の在り方や人間の生き方を再考させた <p>歴史的な諸事象の意味を説明する際は、直接的な因果関係はもちろん、歴史の転換や、他地域との比較による特徴の抽出などにも留意することが大切である</p>
世界史に関わる探究科目	<ul style="list-style-type: none"> ○年代の基本に関わる視点 時期、年代、時代 など ○諸事象の推移や変化に関わる視点 変化、継続、転換 など ○諸事象の特色に関わる視点 相違、共通性、多様性、複合性、相互依存性、多元性 など ○事象相互の関連に関わる視点 原因、背景、ねらい、結果、影響、意味、意義 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ（どこで、誰によって）おこったか ・何が、なぜ、どのように転換したか ・何が受け継がれたのか ・何が変わったのか ・なぜおこった（何のために行われた）か ・それらは、どのような関係があるか ・どのような影響を及ぼしたか ・どんな意味や意義、特色があるのか ・どんな新たな変化をもたらしたか ・何が課題として残されたか ・あなたなら、どんな選択をするか ・あなたなら、どう判断するか ・あなたは何を求めるか 	<p>◎社会的事象等の歴史的な見方や考え方</p> <p>推移や変化などに着目して社会的事象等を見出し、比較して相違や共通性を明確にして、原因と結果を関連付けて</p> <p>↓ 追究の方法 ↓</p> <p>考察 諸地域世界の多様性や複合性、相互依存性や多元性を、歴史的観点から、多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて構想（選択・判断）する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人類は、世界各地の自然環境に適応し、農耕や牧畜を基礎とした諸文明を形成し、やがて諸地域ごとのまとまりを生み出した ・ユーラシアの海・陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が活発化し、新たな地域世界の形成や再編が進んだ ・アジアの繁栄や西洋諸国の拡大を背景に、諸地域世界の結合が進み、西洋諸国の工業化は世界の構造的なつながりを生み出した ・科学技術の発達や生産力の発展は、地球規模での世界の一体化を加速化させ、世界の相互依存関係を一層深めさせた ・19世紀後期から20世紀初期にかけておこった産業構造の変化は、帝国主義政策を生み出し、軍事力に基づく世界分割が進んだ ・冷戦の終結後の国際経済の連携の動きは、新たな地域統合をもたらし、新たな国際秩序を模索する動きが生まれた <p>歴史的な見方や考え方、獲得した知識（概念）を活用して、諸資料に基づいて、複数の立場や意見を踏まえて、自分の考えを論理的に説明すること</p>

社会的な見方や考え方（追究の視点や方法）の例③

	考えられる追究の視点例	追究の視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例	社会、地理歴史、公民における思考力、判断力	考察、構想した結果、獲得する知識の例
高等学校地理歴史	<p>日本史に関する探究科目（仮称）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年代の基本に関わる視点 時期、年代、時代区分 など ○諸事象の推移や変化に関わる視点 継続、発展、時代の転換 など ○諸事象の特色に関わる視点 相違、共通性、時代性、多様性、地域性、 など ○事象相互の関連に関わる視点 原因、背景、ねらい、結果、影響、意味、意義 など ○諸事象の位置付けに関わる視点 論理性、客観性、妥当性 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ（どこで、誰によって）おこったのか ・何が、なぜ、どのように転換したか ・何が、どのように推移したのか ・どのような変化が生じたのか ・どのような背景が存在するか ・どのような時代（時期）だったのか ・なぜおこった（何のために行われた）のか ・どのような関係性が見いだせるのか ・どのような意味や特色があるのか ・どのような影響を及ぼしたのか ・どのような点が現代と関係しているのか ・何が課題として残されたか 	<p>◎社会的事象等の歴史的な見方や考え方</p> <p>追究の方法 ↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推移や変化などに着目して社会的事象等を見出し ・比較して相違や共通性を明確にして ・原因と結果を関連付けて <p>考察 ↓</p> <p>日本の歴史の展開、伝統と文化の特色を多面的・多角的、総合的に考察する力</p> <p>構想 ↓</p> <p>歴史上の人物の行動や事象の意義について、多様な資料を活用して構想（選択・判断）する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遺物や遺跡、様々な歴史資料は、現在の我が国の文化や伝統を考察する上で重要な考察の手がかりとなってきた ・日本の古代国家の形成過程の背景の一つには、東アジア世界の変化が存在する ・中世の社会では、武士勢力や宗教勢力の拡大や、庶民の台頭など権力の多様化が新しい文化や地域的な際を生み出した ・江戸時代初期の経済発展は、町人や富農に文芸の普及や生活文化の上昇をもたらし、文化の担い手を成長させた ・18～19世紀前半の経済・産業の成長は、一方で社会の矛盾を深め、新たな社会構造の構築を促し、明治維新へとつながっていった ・1920年代の経済状況は、人々の政治や社会に対する評価や要求に変化を生み、1930年代の日本の政治状況に大きな影響を与えた ・戦後日本経済の推移は、冷戦の国際状況と密接に関係して展開した <p>・人物や事象の歴史的な意義の判断に際しては、獲得した知識（概念）を活用し、諸資料に基づいて、複数の立場や意見を踏まえ、自分の考えを論理的に説明できることが大切である</p>
公共（仮称）	<ul style="list-style-type: none"> ○人間と社会の在り方を捉える視点 幸福、正義、公正、個人の尊厳、自由、平等、寛容、委任、希少性、機会費用、利便性と安全性、多様性とアイデンティティ など ○公共的な空間に見られる課題の解決を構想する視点 幸福、正義、公正、協働関係の共時性と通時性、比較衡量、相互承認、適正な手続き、民主主義、自由・権利と責任・義務、平等、財源の確保と配分、平和、持続可能性 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会を成立させる背景にあるものは何か ・社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として個人が判断するための手掛かりとなる考え方は何か ・人間としての在り方生き方について考えていくとはどのようなことか 	<p>◎人間と社会の在り方を捉える見方や考え方</p> <p>追究の方法 ↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間と社会の在り方を捉える概念的枠組みに着目して課題を見出し ・それらの課題の解決に向けて選択・判断の基準となる考え方を関連付けて <p>考察 ↓</p> <p>人間としての在り方生き方、社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 ↓</p> <p>複数の立場や意見を踏まえて、社会を形成する主体として構想（選択・判断）する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえ、様々な立場や文化等を背景にして社会が成立している ・「行為の結果よりも、行為の動機となる人間的責務としての公正などを重視する考え方」があり、両者ともに活用し、自分も他者ともに納得できる解を見出そうと考えていくことが重要である ・「自分らしい生き方」を問い、自らの体験や悩みを振り返ることを通じて自らを成長させるとともに、人間は社会的な存在であることを認識し、対話を通じてお互いを高め合うことの両者によってよりよい公共的な空間を作り出していくことが大切である ・選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用するとともに、個人を起点として、自立、協働の観点から多様性を尊重して持続可能な地域づくりに向けた役割を担う主体となることが大切である
倫理（仮称）	<ul style="list-style-type: none"> ○人間としての在り方生き方を捉える視点 善悪、生死、徳、愛、共感、幸福、義務、正義、個人の尊厳、公正、寛容、存在、真理、聖、美 など ○現代の倫理的諸課題の解決を構想する視点 尊重、畏敬、創造、保全、自由、権利、責任、自立、協働、勤労、多様性、相互承認、平和、国際協調、持続可能性 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの人生をどう生きればよいか、生きることの意味は何か、人間とは何か ・他者どう生き、社会でどう生きていけばよいか、良識ある公民としていかに在るべきか、いかに生きるべきか ・人間は何を知ることができるのか、なぜ世界が存在するのか、人間はどのような位置づけで存在するのか ・哲学や宗教や芸術が何を問い、どのような答えを見出してきたか 	<p>◎人間としての在り方生き方を捉える見方や考え方</p> <p>追究の方法 ↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間としての在り方生き方を捉える諸概念に着目して現代の倫理的課題を見出し ・それらの課題の解決に向けて選択・判断の基準となる考え方や哲学、宗教、芸術などに関する理論を有機的に関連付けて <p>考察 ↓</p> <p>人間としての在り方生き方に関する事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 ↓</p> <p>複数の立場や意見を踏まえて構想（選択・判断）する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・価値あるよいものを求め、正しい行いを選ぶ賢さとそれを実行する意志の強さを身に付けた徳の高い人間を目指し生きる ・自由権の保障とともに不利な立場にある人々への配慮も必要であるという考え方を手がかりとして公正・公平な社会について考え続ける ・存在の不思議への驚きから知識への深い懐疑が生じること、正解が定めがたく問うこと自体に意味がある問いがあり、これを問い考え続けることが大切であることに気付く <p>・倫理で考えるのは主に「べき」であるため、自然科学で考える「ある」とは異なるが、観察した事実を根拠として練り上げられた理論を現実の出来事さらに観察し修正しながら、判断と理論を調整していくことが大切である</p> <p>・自民族中心主義やオリエンタリズムなどの思考による偏見を自覚し、異文化を尊重していくことが大切である</p>
政治・経済（仮称）	<ul style="list-style-type: none"> ○社会を捉える視点 個人の尊厳、効率、公正、自由、平等、委任、希少性、機会費用、選択、配分、分業、交換、利便性と安全性、多様性とアイデンティティ など ○社会に見られる課題の解決を構想する視点 対立、協調、効率、公正、比較衡量、具体的な妥当性と法的安定性、相互承認、適正な手続き、民主主義、自由・権利と責任・義務、財源の確保と配分、平和、持続可能性 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・政治の意義と機能はどのようなものであるか ・経済活動の意義はどのようなものであるか 	<p>◎社会を捉える見方や考え方</p> <p>追究の方法 ↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会を捉える概念的枠組みに着目して社会の課題を見出し ・それらの課題の解決に向けて選択・判断の基準となる考え方や政治、法、経済などに関する理論を有機的に関連付けて <p>考察 ↓</p> <p>社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 ↓</p> <p>複数の立場や意見を踏まえて構想（選択・判断）、合意形成する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・政治とは広義には、個人あるいは集団の考え方や意見、利害の対立や衝突を調整したり解決したりすることにより、社会の秩序を維持し統合を図る機能を意味している ・経済活動は分業と交換に基づき人間生活の維持・向上のために行われるものであり、いずれの社会でも、「何をどれだけ」、「どのような方法で」、「誰のために」生産すべきか、生産された財やサービスをどのように社会の構成員に分配し、いかに消費するかという経済的選択の問題を解決しなければならないものである <p>・望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方はどのようなものか</p> <p>・グローバル化が進む国際経済にあって、日本経済は今度どのようにあることが望ましいと考えるか</p> <p>・地域社会の発展と住民生活の向上のために、国と地方公共団体の関係の在り方や私たちの関わり方について、どのような選択・判断、合意形成を行うか</p> <p>・望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方を考察、追究する際には、現代政治における個人、政党及び圧力団体の行動、住民運動など現実社会の事象を取り上げ、客観的な資料を基に様々な角度から主体的に考察することが必要である</p> <p>・個人の尊厳、基本的人権の尊重を基盤に、理論と現実との相互関連に留意しながら持続可能な地域社会となる在り方を考察、追究することが大切である</p>